



大日本塗料株式会社

# 2017年3月期第2四半期 決算説明会


2016年11月24日

(証券コード 4611 東証第一部)

# 目次



I. 決算実績・業績予想	P. 2
II. 経営戦略	P. 15
Appendix. 会社概要及び事業内容	P. 27



# I . 決算実績・業績予想

# 1.DNTグループの概況



- 国内塗料は重防食塗料(構造物塗料)を中心に、建材、金属焼付(カーテンウォール)に強み
- 海外塗料は海外事業拡大プロジェクトにより積極拡大
- 業務用照明機器、蛍光色材においては国内No.1

## 海外塗料

- 自動車・プラスチック塗料
- 金属焼付塗料
- 車輻及び産業機械塗料
- 構造物塗料
- 建築塗料
- 建材塗料



## 照明機器

DNライティング(株)／ニッポ電工(株)  
- 主に業務用照明機器

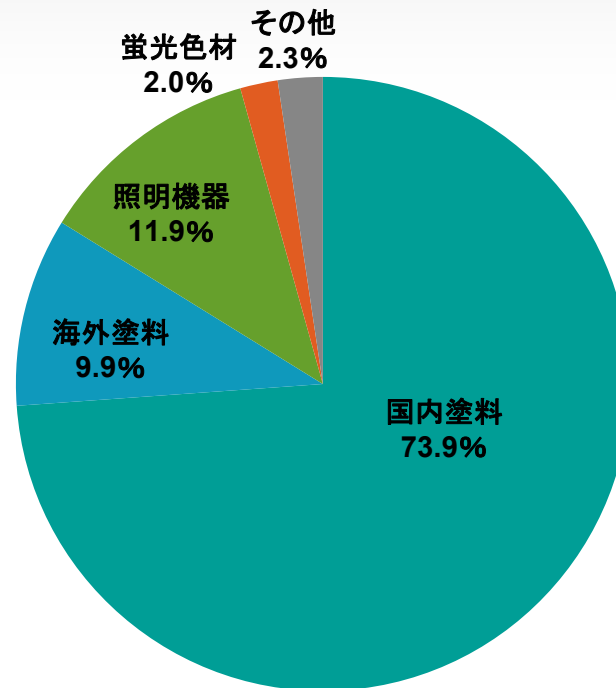


## 蛍光色材

シンロイヒ(株)  
- 蛍光塗料・反射塗料



セグメント売上高の概況  
(連結:2017年3月期第2四半期  
358億円)



## 国内塗料

- 構造物塗料
- 建築塗料
- 建材塗料
- 金属焼付塗料
- 車輻及び産業機械塗料
- 自動車・プラスチック塗料
- 自動車補修塗料
- ジェットインク等



## その他

日塗エンジニアリング(株)  
- エンジニアリング  
ニットサービス(株)  
- 物流



# ①決算概要総括



## 業界環境

### 国内

天候不順や職人不足から工事の遅れが目立ち、建築や構造物分野の市場は低調に推移。建材分野では新設住宅着工戸数の回復を受け堅調。その他工業用分野では、生産調整の影響等で需要低迷。

### 海外

中国の景気減退による影響が広く波及するが、タイやインドネシアでは自動車生産台数が回復基調。メキシコでは自動車生産台数はやや減少も、販売台数は大幅増加で先行き明るい。

## 売上面

- 国内は市況の低迷、海外は円高の影響により減収

<b>連結売上高</b> <b>35,880</b> 百万円 前期比 △1,939百万円 △5.1%	国内塗料	26,502百万円	△1,239百万円 △4.5%	<ul style="list-style-type: none"> <li>建材分野、建築の塗替分野では堅調維持</li> <li>拡販品目は好調も、全体としての市況は低迷</li> </ul>
	海外塗料	3,569百万円	△247百万円 △6.5%	<ul style="list-style-type: none"> <li>東南アジアでの需要回復を受け、現地通貨ベースでは軒並み増収も、円高による為替換算の影響が色濃く減収</li> </ul>
	照明機器	4,252百万円	△251百万円 △5.6%	<ul style="list-style-type: none"> <li>LED関連品販売拡大も、蛍光灯器具の一部取扱い終了に伴う減収分をカバーするまでには至らず</li> </ul>
	蛍光色材	711百万円	+38百万円 +5.8%	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全対策用の蛍光塗料が堅調</li> <li>鉄道車両向けに新規獲得</li> </ul>

## 利益面

- 海外塗料事業の高付加価値化により増益

<b>連結営業利益</b> <b>2,964</b> 百万円 前期比 +260百万円 +9.6%	国内塗料	1,730百万円	+85百万円 +5.2%	<ul style="list-style-type: none"> <li>高付加価値品の拡販及び原材料価格の下落により増益</li> </ul>
	海外塗料	640百万円	+151百万円 +31.1%	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車部品分野における高付加価値品の拡販が伸展</li> </ul>

## ②損益計算書(P/L)(連結)

(単位:百万円、%)

	実績						コメント
	2016年3月期 第2四半期		2017年3月期 第2四半期				
	金額	構成比	金額	構成比	前期比		
					増減額	増減率	
売上高	37,819	100.0	35,880	100.0	△1,939	△ 5.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内では建材・塗替分野好調も構造物分野で低調</li> <li>海外では円高の影響により減収</li> </ul>
売上総利益	10,734	28.4	11,034	30.8	299	2.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>高付加価値品の拡販</li> <li>原材料価格下落の継続</li> </ul>
販売費及び 一般管理費	8,030	21.2	8,069	22.5	39	0.5	
営業利益	2,703	7.1	2,964	8.3	260	9.6	
経常利益	2,639	7.0	2,920	8.1	281	10.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境対策費△69(前期0 → 当期△69)</li> <li>借入残高圧縮による支払利息減 48</li> </ul>
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1,494	4.0	1,884	5.3	389	26.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業構造改善費用△46(前期△91 → 当期△137)</li> </ul>
減価償却費	957	—	937	—	△20	△ 2.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>前期比△20</li> <li>内訳(国内)20(海外)△22(照明)△16 (その他)△2</li> </ul>
設備投資額	824	—	790	—	△34	△ 4.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>前期比△34</li> <li>内訳(国内)93(海外)△18(照明)△110 (その他)1</li> </ul>

## 2. 2017年3月期第2四半期実績

### ③セグメント別売上高・営業利益(連結)

(単位:百万円、%)

	実績						コメント
	2016年3月期 第2四半期		2017年3月期 第2四半期				
	金額	構成比	金額	構成比	前期比		
					増減額	増減率	
売上高	37,819	100.0	35,880	100.0	△1,939	△5.1	
国内塗料	27,741	73.4	26,502	73.9	△1,239	△4.5	■ 建材・塗替分野好調も構造物分野で低調
海外塗料	3,816	10.1	3,569	9.9	△247	△6.5	■ 中国は減収、東南アジア・北中米で増収 ■ 円高の影響で円貨ベース減収
照明機器	4,504	11.9	4,252	11.9	△251	△5.6	■ LED照明は好調も蛍光灯関連器具の一部取扱い終了につき減収
蛍光色材	672	1.8	711	2.0	38	5.8	■ 安全対策用塗料、鉄道車輛用カラー帯が好調
その他	1,085	2.8	845	2.3	△239	△22.1	
営業利益	2,703	100.0	2,964	100.0	260	9.6	
国内塗料	1,644	60.8	1,730	58.4	85	5.2	■ 高付加価値品の拡販と原材料価格下落により増益
海外塗料	488	18.1	640	21.6	151	31.1	■ 東南アジア・北中米で自動車部品用塗料の高付加価値品の拡販が伸展
照明機器	277	10.3	388	13.1	110	39.9	■ 販売単価是正による収益性の改善
蛍光色材	76	2.8	62	2.1	△13	△18.3	
その他	108	4.0	47	1.6	△61	△56.6	
調整額	108	4.0	95	3.2	△12	△11.3	



## 2. 2017年3月期第2四半期実績

### ④貸借対照表(B/S)(連結)

(単位:百万円)

	2016年3月期	2017年3月期 第2四半期	増減額	コメント
<b>流動資産</b>	31,779	31,052	△ 727	
現金及び預金	3,125	3,381	255	■ 営業活動増加2,315に対し、借入金の返済△387、設備投資の支払等△546、為替の影響△253、配当金支払△514、自己株式取得△290
受取手形及び売掛金	17,489	16,970	△ 519	■ (国内)580、(照明)△691、(海外)△223、(その他)△185
たな卸資産	9,362	9,045	△ 316	■ (国内)△28、(海外)△276
その他流動資産	1,801	1,654	△ 146	
<b>固定資産</b>	35,953	35,815	△ 137	
有形固定資産	23,629	23,155	△ 474	■ 設備投資増加673に対し、減価償却△863、為替の影響△267
無形固定資産	753	782	29	
投資その他の資産	11,570	11,876	306	
<b>資産合計</b>	67,732	66,867	△ 864	
<b>負債合計</b>	37,112	35,834	△ 1,277	
(借入金残高)	(9,968)	(9,519)	△ 449	■ 借入金返済△387、為替の影響△62
<b>純資産合計</b>	30,620	31,032	412	■ 親会社株主に帰属する四半期純利益1,884に対し、配当金支払△514、自己株式取得△290、為替換算調整勘定△549
<b>負債純資産合計</b>	67,732	66,867	△ 864	



## ⑤ キャッシュ・フロー計算書(連結)

(単位:百万円)

	2016年3月期 第2四半期	2017年3月期 第2四半期	増減額	コメント
営業活動による キャッシュ・フロー	1,897	2,315	417	■ 各事業セグメントの利益
投資活動による キャッシュ・フロー	△495	△ 395	100	■ 関係会社株式売却収入増加 110 (前期 56 → 当期 166)
財務活動による キャッシュ・フロー	△1,181	△ 1,414	△ 232	■ 借入金の返済増加 △139 (前期 △248 → 当期△ 387) ■ 自己株式取得支出増加 △40 (前期 △250 → 当期△290) ■ 配当金支払増加 △69 (前期△445 → 当期△514)
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△5	△ 253	△ 248	
現金及び現金同等物の 増減額	215	251	36	
現金及び現金同等物の 期首残高	2,444	3,072	628	
現金及び現金同等物の 四半期末残高	2,659	3,324	664	

### 3. 2017年3月期業績予想

## ①業績予想のポイント



### 売上面

#### ■ 前期比減収

連結売上高 <b>74,500</b> 百万円 前期比 △1,888百万円 △2.5%	国内塗料	<b>54,300</b> 百万円	△1,208百万円 △2.2%	■ 官民投資ともに回復基調 ■ 維持・補修需要に注力
	海外塗料	<b>7,200</b> 百万円	△267百万円 △3.6%	■ 自動車部品用の市況良好 ■ 円高による影響を考慮

### 利益面

#### ■ 前期比増益、過去最高益を更新

連結営業利益 <b>6,600</b> 百万円 前期比 +741百万円 +12.7%	国内塗料	<b>4,050</b> 百万円	+264百万円 +7.0%	■ 原材料価格は引き続き 安定的に推移
	海外塗料	<b>1,100</b> 百万円	+324百万円 +41.9%	■ 高付加価値品の拡販 ■ 前期に在庫の評価減を実施

### 3. 2017年3月期業績予想

## ②損益計算書(P/L)業績予想(連結)

(単位:百万円、%)

	実績		業績予想				コメント
	2016年3月期		2017年3月期				
	金額	構成比	金額	構成比	前期比		
増減額					増減率		
売上高	76,388	100.0	74,500	100.0	△1,888	△2.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内市場では官民ともに建設投資が回復基調</li> <li>為替相場は上期水準で想定</li> </ul>
売上総利益	21,906	28.7	22,700	30.5	793	3.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>高付加価値化の継続</li> </ul>
販売費及び一般管理費	16,047	21.0	16,100	21.6	52	0.3	
営業利益	5,858	7.7	6,600	8.9	741	12.7	
経常利益	5,559	7.3	6,500	8.7	940	16.9	
親会社株主に 帰属する 当期純利益	3,614	4.7	4,100	5.5	485	13.4	
減価償却費	1,913	—	1,850	—	△63	△3.3	
設備投資額	1,811	—	1,750	—	△61	△3.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>当期は更新投資がメイン</li> </ul>

### 3. 2017年3月期業績予想

## ③セグメント別売上高・営業利益(連結)

(単位: 百万円、%)

	実績		業績予想				コメント
	2016年3月期		2017年3月期				
	金額	構成比	金額	構成比	前期比		
増減額					増減率		
<b>売上高</b>	76,388	100.0	74,500	100.0	△1,888	△2.5	
国内塗料	55,508	72.7	54,300	72.9	△1,208	△2.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 公共工事回復の見込み</li> <li>■ 建材分野の需要も継続</li> </ul>
海外塗料	7,467	9.8	7,200	9.7	△267	△3.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 自動車部品用塗料の堅調維持</li> </ul>
照明機器	9,694	12.7	9,400	12.6	△294	△3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 新市場開拓による販路拡大に着手</li> </ul>
蛍光色材	1,432	1.9	1,500	2.0	67	4.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 防災・減災需要獲得に注力</li> </ul>
その他	2,284	2.9	2,100	2.8	△184	△8.1	
<b>営業利益</b>	5,858	100.0	6,600	100.0	741	12.7	
国内塗料	3,785	64.6	4,050	61.4	264	7.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 原材料価格は引き続き安定的に推移</li> </ul>
海外塗料	775	13.2	1,100	16.7	324	41.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 高付加価値化の推進</li> <li>■ 前期に在庫の評価減を実施</li> </ul>
照明機器	688	11.7	950	14.4	261	38.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 前期に蛍光灯関連在庫の評価減を実施</li> </ul>
蛍光色材	171	2.9	150	2.3	△21	△12.6	
その他	202	3.6	110	1.7	△92	△45.7	
調整額	235	4.0	240	3.6	4	1.8	

### 3. 2017年3月期業績予想

## ④海外地域別売上高



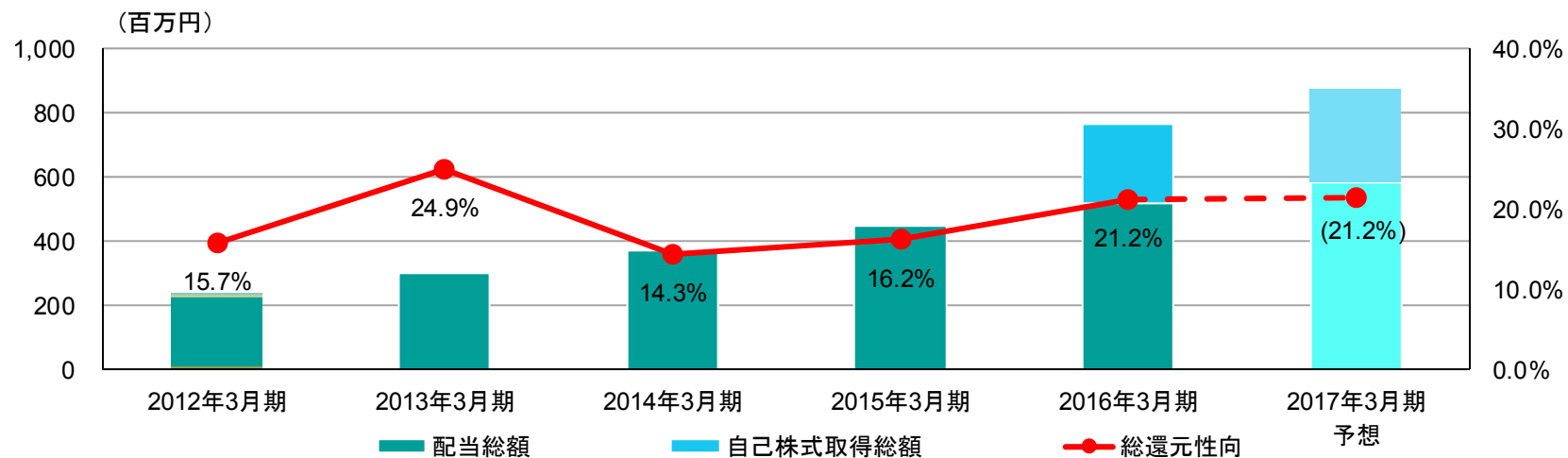
(単位:百万円、%)

	実績		業績予想				コメント
	2016年3月期		2017年3月期				
	金額	構成比	金額	構成比	前期比		
増減額					増減率		
海外計	7,467	100.0	7,200	100.0	△267	△3.6	■ 為替相場は上期水準で想定
東南アジア	5,489	73.5	5,200	72.2	△289	△5.3	■ 自動車部品用塗料の堅調維持
中国	1,251	16.8	1,100	15.3	△151	△12.1	
その他	727	9.7	900	12.5	173	23.9	■ 自動車生産台数は下期に上向く見込み

## 4. 株主還元

### 総還元性向推移

- 業績に連動した継続的な増配を着実に実施。2017年3月期は0.5円増配の4.0円配当を実施予定。2016年5月13日開催の取締役会において1.5百万株、300百万円を上限とした自己株式取得を決議。1.5百万株を290百万円で取得



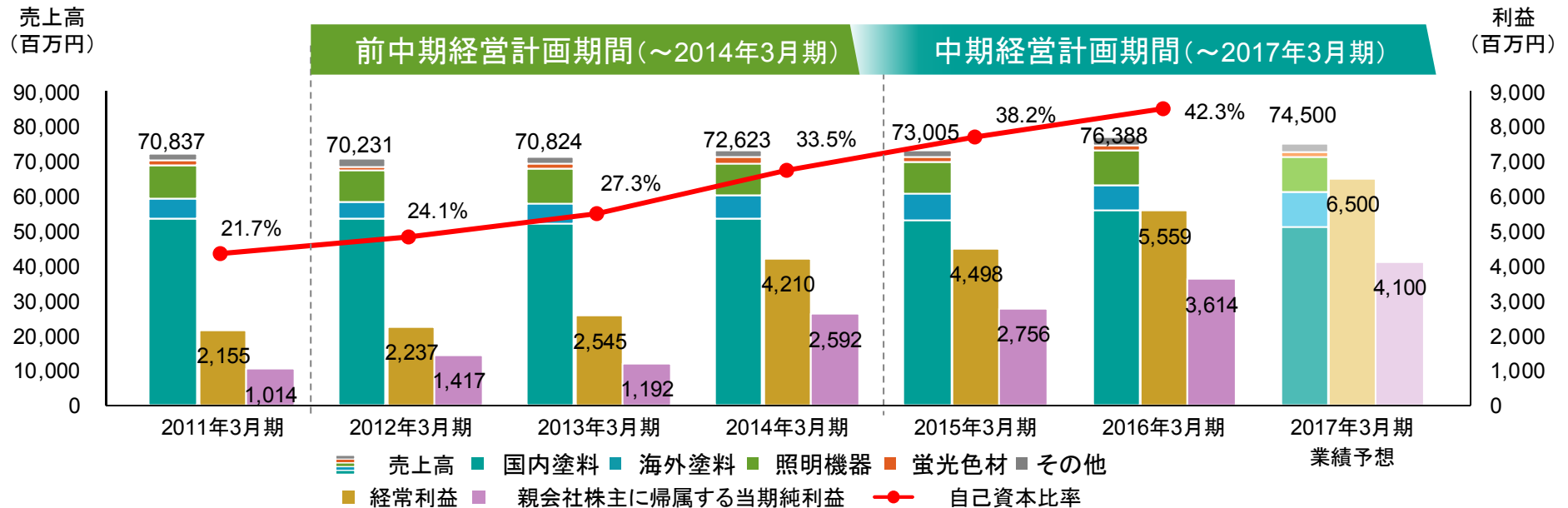
### 株主優待

- 2015年5月13日開催の取締役会において、株主優待制度の導入を決定
- 2016年も下記内容にて実施

保有株式数	優待内容
1,000株以上10,000株未満	当社オリジナルQUOカード 1,000円分
10,000株以上	当社オリジナルQUOカード 3,000円分

# 5. 中計期間の売上高・利益推移結果

■ 構造改革を完了し、過去最高益を連続更新



## 高付加価値化の伸展 製品ポートフォリオの転換

- ① 高付加価値品の拡販・推進 (高付加価値品約35%増加)
  - ② 低採算品の生産・販売見直し (低採算品約23%減少)
  - ③ 低採算品から高付加価値品への代替化推進
- (単体ベース: 2011年3月期→2016年3月期販売数量実績)

## 高収益体質への転換


経常利益 21億円 → 65億円 (+44億円)  
 経常利益率 3.0% → 8.7% (+5.7ポイント)  
 (2017年3月予想ベース)

## 財務内容大幅好転

借入金圧縮 208億円 → 95億円 (△113億円)  
 自己資本比率向上 21.7% → 43.6% (+21.9ポイント)  
 (2016年9月末)



## II. 經營戰略



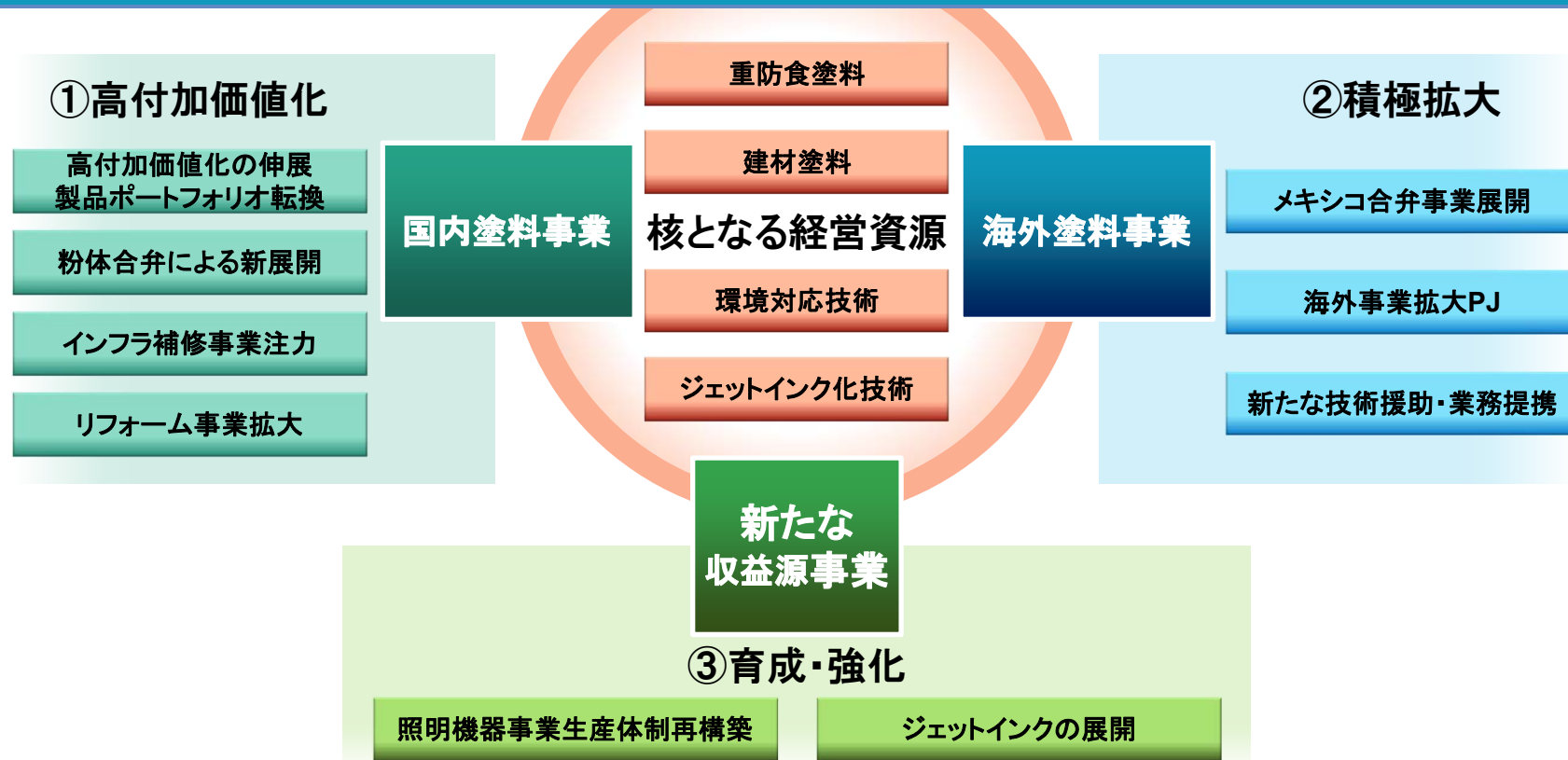
# 1. 経営戦略



- DNTグループの核となる経営資源を軸に国内塗料事業の高付加価値化、海外塗料事業の積極拡大、新たな収益源事業の育成・強化に取り組む

## 経営理念

当社は、新しい価値の創造を通じて地球環境や資源を護り、  
広く社会の繁栄と豊かな暮らしの実現に貢献できる企業を目指します



## 2.中期経営計画進捗状況①概要



- 通期業績予想を修正、中期経営計画の当初計画を利益面で達成見込み
- 構造物分野の需要の伸び悩み、汎用品価格低下等から業界全体の塗料出荷金額が弱含む中、高付加価値品の拡販による高収益体質への転換を伸展

### 支柱施策

①国内塗料事業の高付加価値化

②海外塗料事業の積極拡大

③新たな収益源事業の育成・強化

	2014年3月期実績	2017年3月期		
		当初計画(2014年3月期比)	業績予想(2014年3月期比)	
数値目標 連結計	売上高	726億円	800億円 (+73億円、10.2%)	745億円 (+18億円、2.6%)
	営業利益	42億円	59億円 (+16億円、38.0%)	66億円 (+23億円、54.4%)
	経常利益	42億円	60億円 (+17億円、42.5%)	65億円 (+22億円、54.4%)
	経常利益率	5.8%	7.5% (+1.7ポイント)	8.7% (+2.9ポイント)

## 2.中期経営計画進捗状況②国内塗料



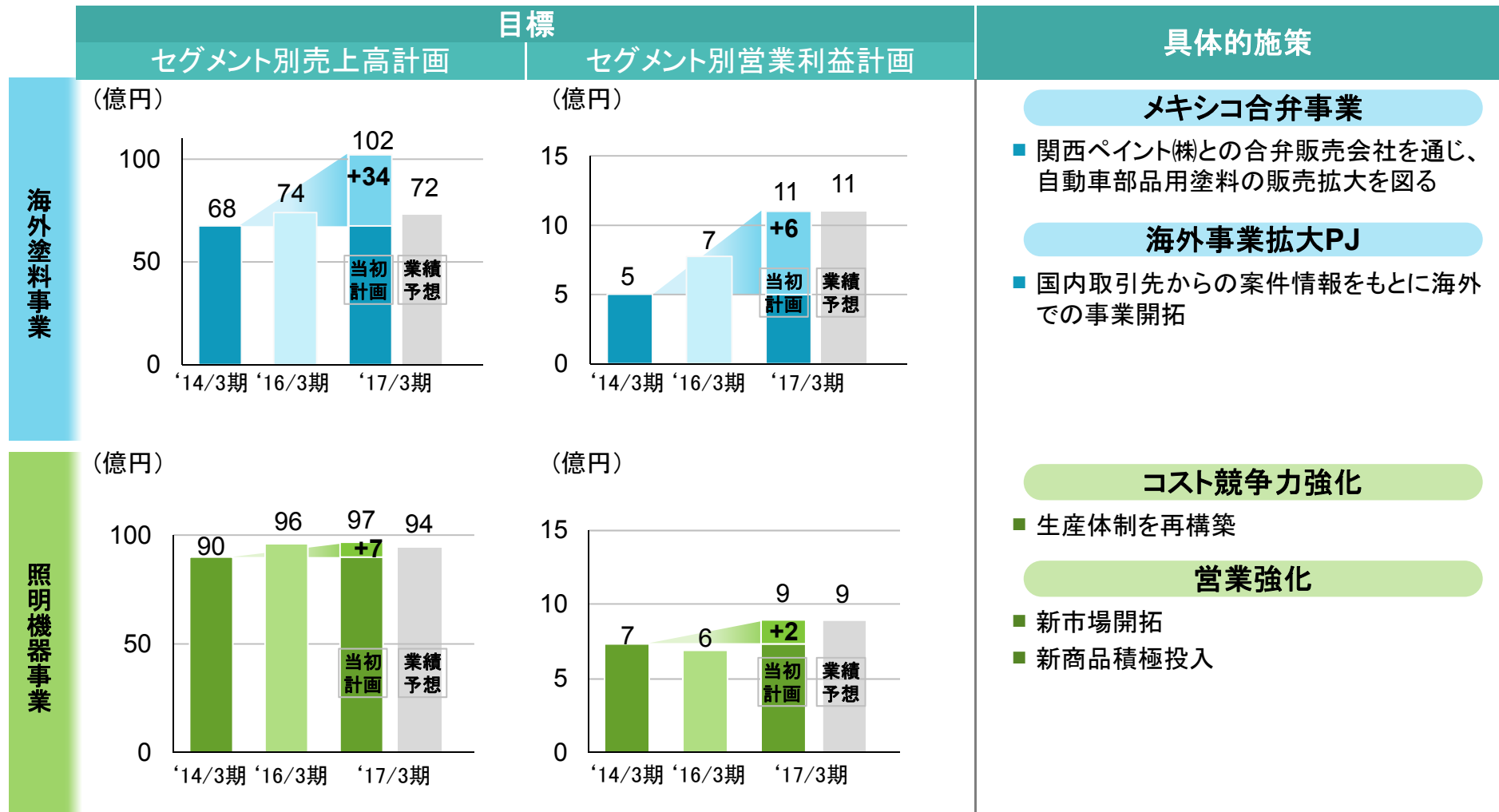
- 国内塗料事業については、高付加価値品の伸展により増益を継続
- ジェットインク事業については、プロジェクトを発足、対象市場は着実に拡大

	目標		具体的施策																								
	セグメント別売上高計画	セグメント別営業利益計画																									
国内塗料事業	<p>(億円)</p> <table border="1"> <tr><th>期</th><th>売上高</th></tr> <tr><td>'14/3期</td><td>534</td></tr> <tr><td>'16/3期</td><td>555</td></tr> <tr><td>'17/3期</td><td>567</td></tr> <tr><td>当初計画</td><td>567</td></tr> <tr><td>業績予想</td><td>543</td></tr> </table>	期	売上高	'14/3期	534	'16/3期	555	'17/3期	567	当初計画	567	業績予想	543	<p>(億円)</p> <table border="1"> <tr><th>期</th><th>営業利益</th></tr> <tr><td>'14/3期</td><td>25</td></tr> <tr><td>'16/3期</td><td>37</td></tr> <tr><td>'17/3期</td><td>33</td></tr> <tr><td>当初計画</td><td>33</td></tr> <tr><td>業績予想</td><td>40</td></tr> </table>	期	営業利益	'14/3期	25	'16/3期	37	'17/3期	33	当初計画	33	業績予想	40	<p><b>高付加価値品への製品ポートフォリオの転換</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ①高付加価値化の拡販・推進②低採算品の生産・販売見直し③低採算品から高付加価値品への代替化推進</li> <li>■ ジェットインク事業におけるIJフロンティアPJによる市場開拓の伸展</li> </ul> <p><b>粉体合併事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 関西ペイント(株)連結子会社久保孝ペイント(株)と当社の粉体塗料事業を統合(出資51%)</li> <li>■ 原材料や製造のコストシナジー効果の導出</li> </ul> <p><b>インフラコーティングPJ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 東京五輪に向け関連施設需要や、都市部のインフラ整備需要を、グループ一体となったプロジェクトチーム体制で取組む</li> <li>■ DNT塗膜診断システムの活用</li> </ul> <p><b>リフォーム事業拡大PJ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 当社の建材塗料で施工された物件の塗替工事と塗料需要の取り込み</li> </ul>
	期	売上高																									
'14/3期	534																										
'16/3期	555																										
'17/3期	567																										
当初計画	567																										
業績予想	543																										
期	営業利益																										
'14/3期	25																										
'16/3期	37																										
'17/3期	33																										
当初計画	33																										
業績予想	40																										

## 2.中期経営計画進捗状況③海外塗料/照明機器



- 海外塗料事業はメキシコ合併事業において日系を中心に着実なシェアを拡大
- 照明機器事業については、構造改革が伸展し、利益体質に転換

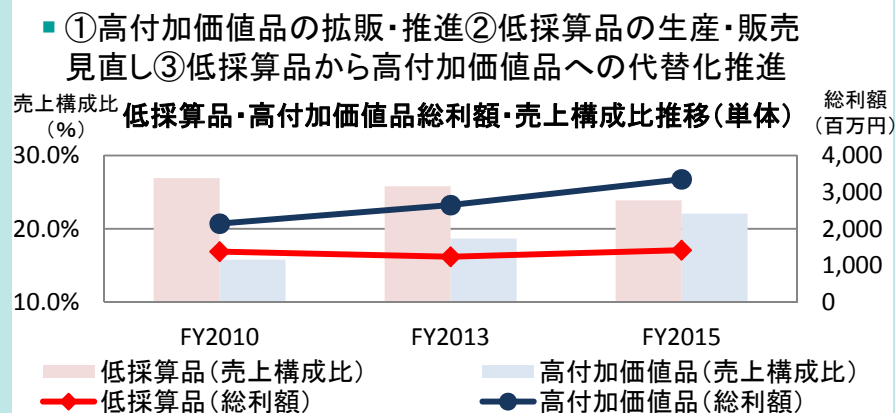


### 3. 経営戦略トピックス

## ① 国内塗料事業の高付加価値化

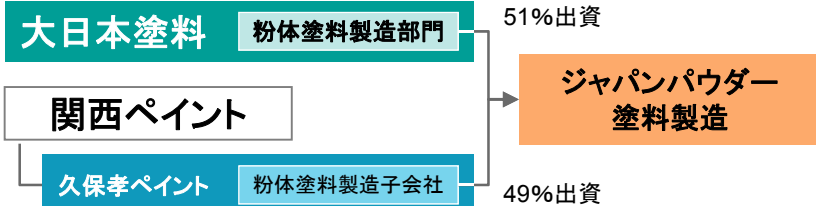
- 高付加価値品の拡販・低採算品の見直しを伸展、製品ポートフォリオの改善により高収益体質へ転換
- 粉体塗料事業を合併により再編、効率性向上とコスト削減による競争力強化を実現
- 東京五輪・インフラ補修拡大に向け、「インフラコーティングPJ」を立ち上げ、構造物塗替需要に対応
- リフォーム事業の高まりに伴い、リフォーム会社との連携を強化の上、事業拡大

### 高付加価値品への製品ポートフォリオ転換



### 粉体合併事業

- ジャパンパウダー塗料製造(株)の設立(2015年1月)



- 材料費コストダウンによる大幅な利益改善効果
- 粉体塗料市場における競争力強化によるシェア拡大

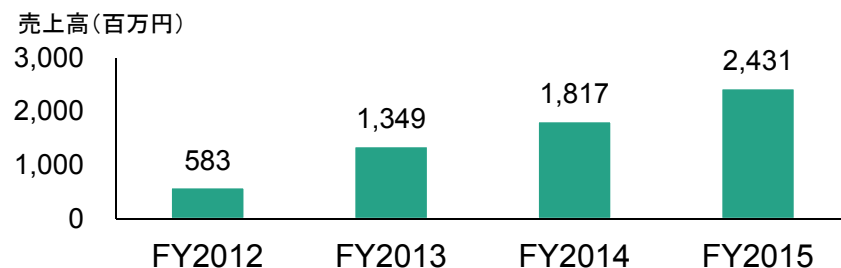
### インフラコーティングPJ

- 東京五輪需要及び都市開発需要、インフラ需要の受注活動においてスポーツ施設へ粉体塗料が採用
- 首都高の橋梁塗替に水性重防食システムが採用



### リフォーム事業拡大PJ

- 大手ハウスメーカー系リフォーム会社との連携体制の拡大





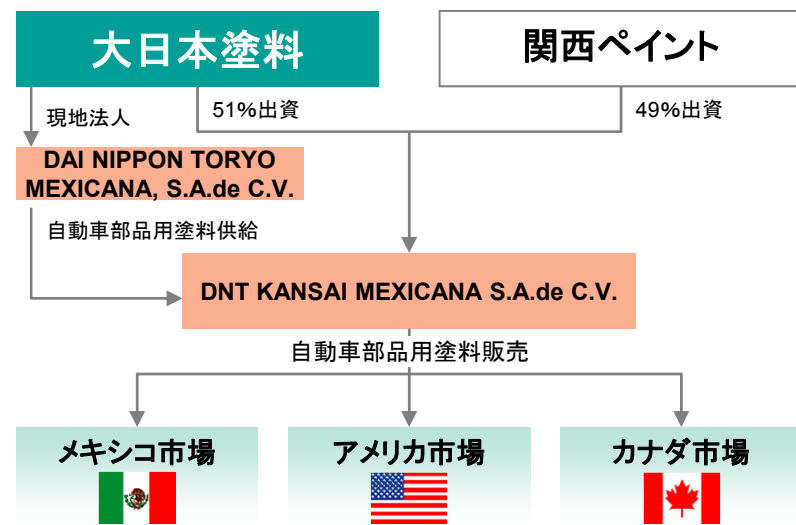
### 3. 経営戦略トピックス

## ② 海外塗料事業の積極拡大

- 自動車部品など工業用塗料の分野で基盤を積極拡大、メキシコ合併事業においては既存の生産拠点の販路拡大に注力
- 重防食塗料案件獲得に向け、グローバルに活動展開を実施。大型案件の受注獲得に手応え

### メキシコ合併事業

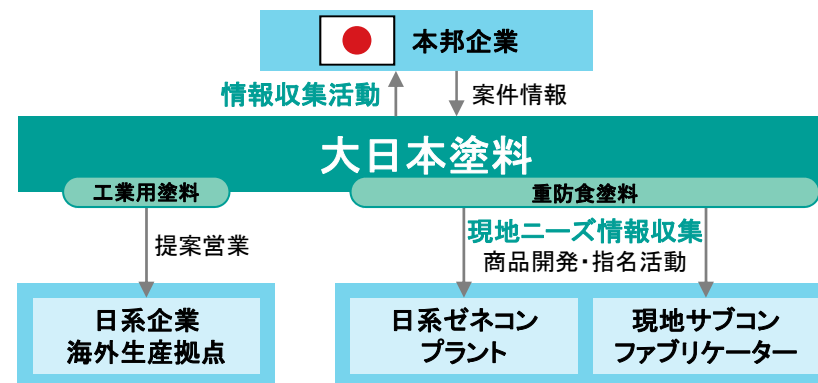
- 2013年6月、関西ペイント(株)とメキシコ合衆国、アメリカ合衆国及びカナダにおける自動車部品メーカー向け塗料製品の販売事業を行う合併会社をメキシコ合衆国に設立



- 北米における堅調な自動車関連需要を捉え、日系部品メーカーを中心とした新規顧客の開拓を実現し売上拡大

### 海外事業拡大PJ

- 2012年より、国内で取引のある日系企業をピックアップし、海外での新規顧客開拓と事業展開を積極的に推進



- 中国・タイにおける自動車工業用塗料新規顧客開拓
- インドネシアにおける自動車部品向け高付加価値塗料の納入
- 日系企業案件フォローによる事業基盤の拡大及び重防食塗料分野における大型プロジェクトへの参画を実現

- ・ マレーシアの火力発電所向け重防食塗料受注
- ・ 中国における重防食塗料案件の新規獲得



## ③新たな収益源事業の育成・強化

- LED時代にも業務用照明機器での高いシェアは維持、効率化を進めつつ新分野を開拓
- 塗料事業とジェットインク事業の両方を展開している強みを生かし、建材分野を中心に新しい塗装システムを提案

### 照明機器事業

- 大日本塗料の生産効率改善ノウハウを、照明機器事業に適用、さらなる利益率改善と競争力の拡大を目指す



日本郵船歴史博物館  
施主: 日本郵船歴史博物館



工学院大学  
工学院大学ラーニングコモンズ B-1CHI  
施主: 工学院大学  
照明計画: 飯島直樹(飯島直樹デザイン室)  
撮影: 金子俊男

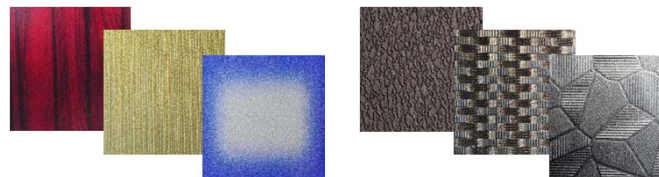
- 構造改革断行(2016年3月期)
  - 新基幹システムを導入/蛍光灯の在庫減損
- 蛍光灯の販売単価是正による収益性の改善
- LEDの先を見据えた、有機EL照明を開発



有機EL照明

### ジェットインク事業

- インクジェットの加飾技術、塗料の積層技術及びライン管理技術を展開
- インクジェット加飾のインライン生産を成功に導く最大のポイントは「塗料とインクの相互の調整」。塗料とインクの複合塗膜を形成するためには、両方に知見のある当社が最適
- IJフロンティアPJを発足、顧客と用途拡大を目指す
- 加飾バリエーション例



見栄え

触感

- プロジェクト活動での塗料とインクのセットによる加飾及び機能の提案
  - 建材塗料分野の内外装材に採用
  - 金属焼付塗料分野における家庭用鋼製商品に展開
- 今後も様々な塗料分野での市場開拓を展開

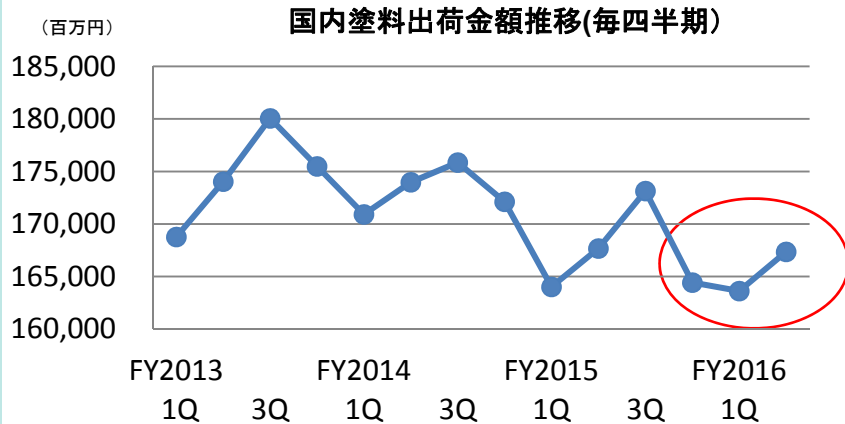
# 4.事業環境



- 国内インフラ需要は、東京五輪等により維持・補修需要が拡大も趨勢的に漸減傾向
- 新興国では塗料需要拡大、日系メーカーの海外生産数量は大幅な成長、インフラ投資需要拡大に期待

## 国内塗料出荷の状況

- 2015年度からはインフラ整備需要等が増加し設備投資回復の兆しもみられる。2015年度4Q以降民間需要が鈍化し、公共需要も低調気味となり、前年を下回る状況が継続するも2Q以降底入れの兆し



(出所)日本塗料工業会資料より弊社作成

## 国内インフラ需要の動向

- 東京五輪需要は、2017年度から本格化、競技施設の新設・改修に加え、ホテル・道路交通網の整備への需要拡大、ピークは2019年度
- 五輪後の国内インフラ塗料市場は趨勢的に漸減傾向にあるも、メンテナンス・改修への市場が拡大する

## 安全対策課題対応

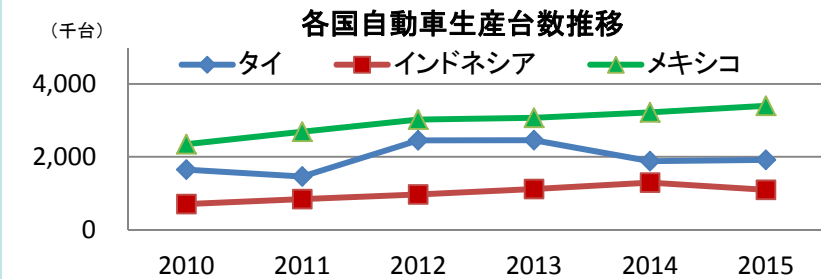
- 2014～2015年に相次いで発生した首都高塗替工事中の火災の影響による計画遅延により塗替需要は低迷
- 安全対策としての水性への移行が進行
  - 今春より水性塗料が首都高塗替を中心に試験施工
  - 日本塗料工業会が2016年7月に水性重防食塗料の国内初規格

## 建材分野

- 消費税増税延期により当初期待された駆け込み需要は見込めなくなったものの、リフォーム市場は堅調であり、リフォームに伴う建材塗料の需要も堅調に推移

## 新興国における自動車需要の回復

- タイ・インドネシアでの自動車生産が回復、メキシコでも堅調な推移、新興国の自動車需要が拡大



(出所)各国業界団体統計等(タイ:FTI、インドネシア:GAIKINDO、メキシコ:AMZA)により弊社作成

## 5. 成長へ向けての取り組み



- 「環境配慮・安全かつ耐久性に優れた」高付加価値品を拡販
- 鋼構造物とコンクリート構造物の老朽化が進行、ストック需要の拡大必須
- 構造物の塗替需要への対応として、「オール水性塗装」及び「コンクリート防食」を紹介

### オール水性塗装の採用実績(長野県・大原橋)

- 「DNT水性重防食システム」の冬季における鋼道路橋の塗替塗装での実績が大きな反響
  - 防食下地から下塗り、中塗り、上塗りまで全て水性塗料で塗装する「DNT水性重防食システム」が橋梁に初めて採用
  - 国内冬季気象条件下において水性防食塗装が対応可能なことを初めて実証
  - 事業者や自治体における、厳しい環境配慮・工事安全対策基準が求められる中、実績を元に展開に注力



大原橋全景



VフロンHの採用

### コンクリート防食ラインアップ

- 創業以来の優れた防食技術をコンクリートの劣化防止技術開発にも応用展開
- 市場拡大に備え、「レジガードシステム」として工法を確立
  - 商品ラインアップを充実

#### (1)「NETIS」登録商品

レジガード SD工法	■ 表面のひび割れ、剥落など、様々な劣化状況に対応した上塗り・中塗り塗料等を選択することで、最適な塗装仕様を提供
レジソークType1	■ コンクリート表面に撥水効果をもたせることで水分や塩分などの腐食要因の侵入を防ぎ、劣化の進行を抑制
VFRM-トンネル 内装システム	■ トンネル内のコンクリート片剥落防止システム。水性の不燃塗料であり、トンネル内の火災による延焼、有害ガス発生を防止

#### (2)新商品(上市予定)

レジガード ワンデーフィニッシュ	■ 従来3工程の塗装仕様を2工程にすることで、施工日数が最短1日で可能
---------------------	-------------------------------------

#### 施工例(VFRM-トンネル内装システム)



施工前

塗布工事中

施工完了

## 6. 環境・社会への取組み



- 創業の原点であるモノづくりの精神を受け継ぎながら、環境対応技術の開発に積極的な取組みを継続
- 環境方針のもと研究開発・原料調達・生産・流通販売・塗装を経て廃棄に至るまでライフサイクル全体を通し、環境影響を最小とする

### 日本政策投資銀行による塗料業界初の環境格付取得

- 当社は日本政策投資銀行(DBJ)から、「環境への配慮に対する取組みが先進的」との格付を取得し、「DBJ環境格付」に基づく融資を受けた。評価のポイントとして、下記内容が高く評価
  - 環境配慮製品の売上高を拡大させている点
  - 独自の「環境セミナー」を通じ、幅広いステークホルダーに対する製品の環境情報開示及び環境に配慮した塗料の普及に努めている点
  - 国内外の生産子会社において環境マネジメントシステムの構築を推進し、グループ全体で環境配慮製品へ取り組んでいる点
- 今後も「環境負荷が小さく持続可能な社会を築いていくことが重要である」との認識のもと、環境への取組みを継続



### 環境マネジメントシステム

- 大阪、小牧、那須の3事業所でISO14001の認証を取得、省エネルギーを徹底した事業活動を通じて二酸化炭素の発生量原単位の削減に取組み、環境対応形塗料など市場ニーズに対応した商品の開発を積極的に展開
- 環境マネジメントシステム(EMS)を基軸としながら、「環境負荷が小さく、持続可能な経済社会の構築」へ向けて、グループ全体での環境経営体制を強化

### 環境セミナー

- 2002年から毎年「DNT環境塾」環境と塗料についてのセミナーを開催
  - 札幌から福岡まで全国縦断、環境配慮への取組みを中心とした塗料技術を紹介
  - 2016年テーマ「塗料・塗装における環境配慮への取組み」



### 環境配慮製品

- DNT水性重防食システム
- VフロンHBシリーズ
- エコケールシリーズ
- SBライズコートシステム
- ノボクリーンシリーズ
- V-PETシリーズ
- パウダーフロンSELA
- Auto V-TOPモナーク Excellent

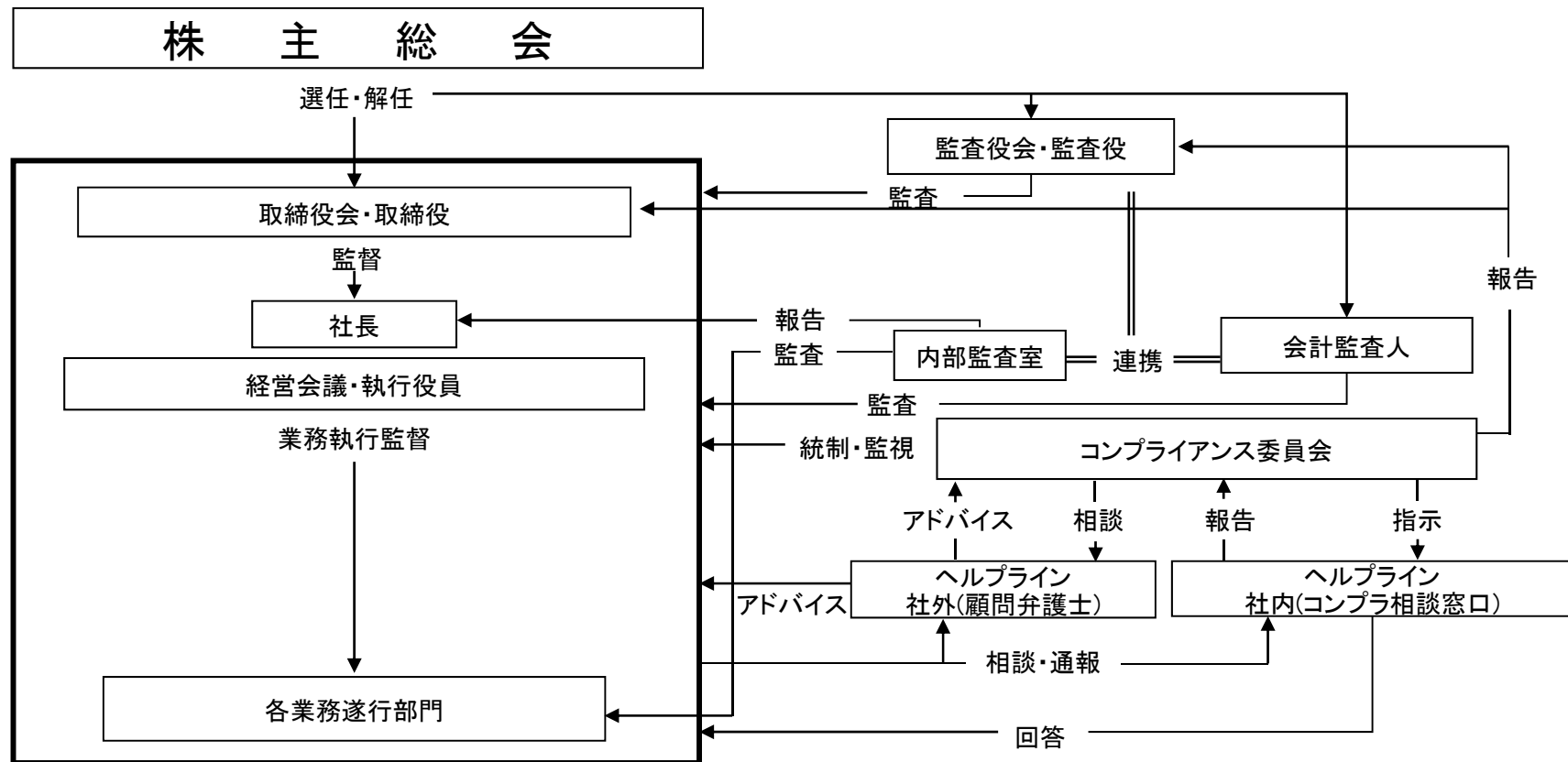


# 7. ガバナンス体制



- 経営の透明性を確保、コーポレートガバナンス強化に向け必要な体制整備を推進
- コーポレートガバナンス・コードに対する当社の基本的な考え方とその枠組み、運営に係る方針を定めた「コーポレートガバナンスに関する基本方針」を2015年10月29日に制定

## ガバナンス体制





**Appendix.**  
**会社概要及び事業内容**

# 1. 会社概要

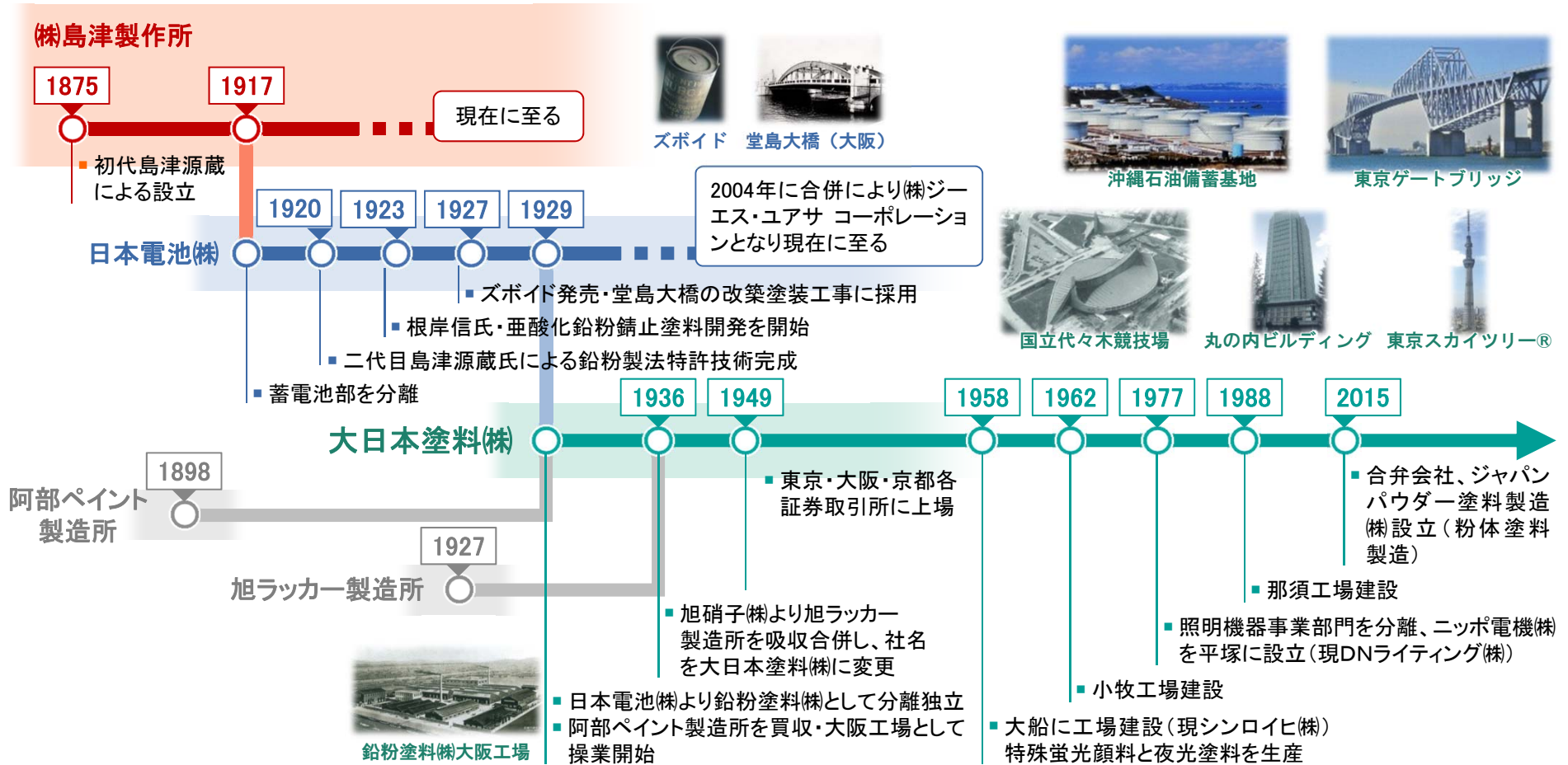


会社名	大日本塗料株式会社	Dai Nippon Toryo Company, Limited
本社	大阪市此花区西九条六丁目1番124号	
設立	1929年7月25日	
事業内容	塗料・ジェットインクの製造、販売	
代表者	取締役社長 岩浅 壽二郎	
売上高	76,388百万円	(連結/2016年3月期)
経常利益	5,559百万円	(連結/2016年3月期)
親会社株主に帰属する当期純利益	3,614百万円	(連結/2016年3月期)
資本金	8,827百万円	(連結/2016年3月期末)
従業員数	2,192名	(連結/2017年3月期第2四半期末)
証券コード	4611 東証第一部	



## 2. 沿革

- (株)島津製作所から発祥の日本電池(株)(現株ジーエス・ユアサ コーポレーション)において開発された亜酸化鉛粉錆止塗料を基に、1929年日本電池(株)より分離、独立
- 創業製品「ズボイド」に始まり建築物・構造物の重防食塗料を中心に、日本の塗料技術をリード



# 3. 国内拠点



■ 国内24拠点(本社・事業所5拠点、営業所19拠点)、連結子会社16社

- 本社
- 事業所(工場・研究所・製造所)
- 営業所
- 連結子会社



# 4. 海外拠点

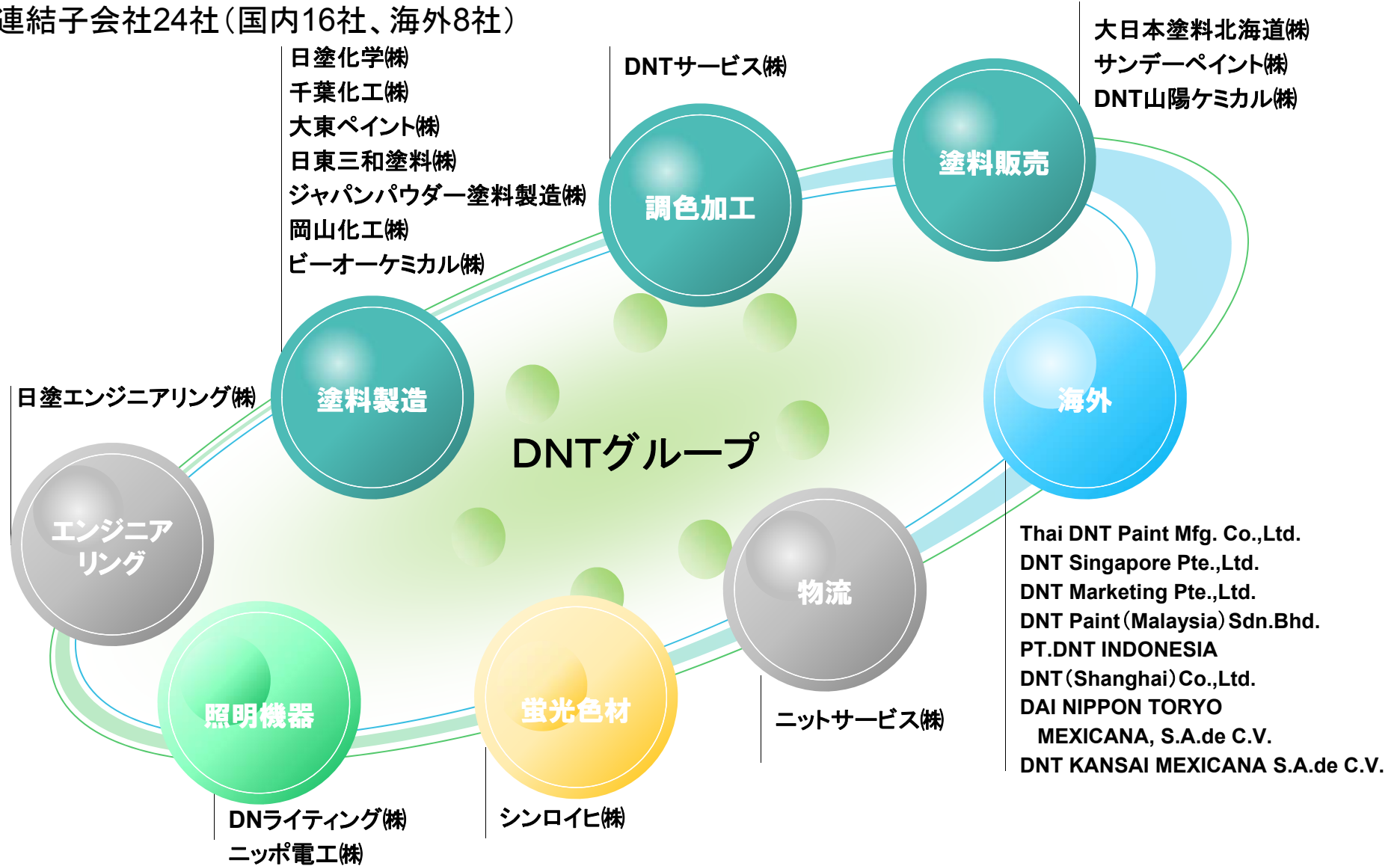
## ■ 海外9拠点（海外工場 5拠点）



# 5. DNTグループ概要



■ 連結子会社24社(国内16社、海外8社)



## 6.事業内容

### ①国内塗料事業(1)商品力と顧客基盤

- 下塗りから上塗りまでを当社塗料で完結できるトータルシステムの提供で最適な塗装仕様を実現
- 新築時から塗り替え(維持・補修)時まで塗装物のライフサイクルをカバーするビジネスモデルにより確立した強固な顧客基盤

#### 技術力に裏打ちされた商品力

下塗りから上塗りまでを当社塗料で完結可能なシステムを提供

##### 構造物

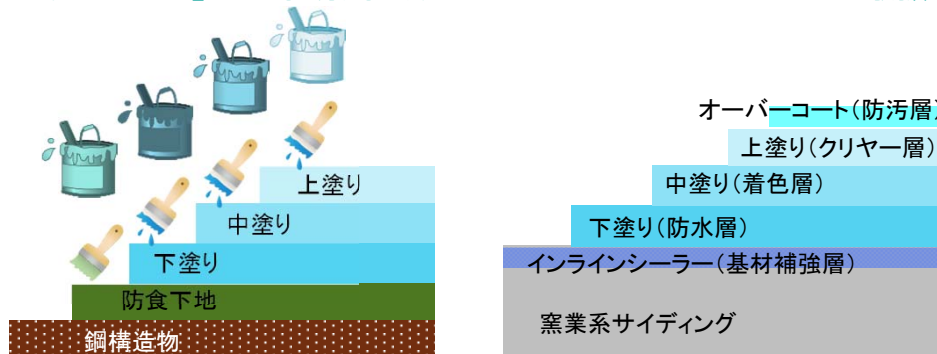
超耐久性塗装システム:  
VフロンHBシリーズ  
DNT水性重防食システム

##### 建材

インラインシーラーから  
オーバーコートまで  
当社仕様による

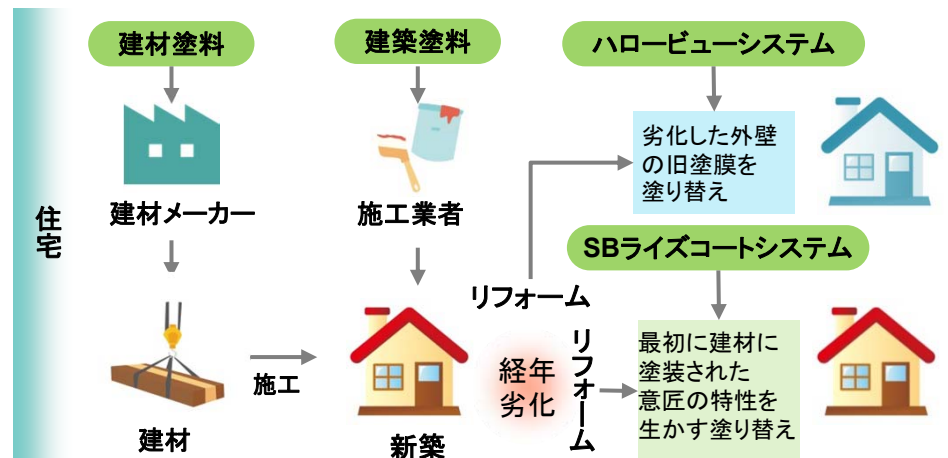
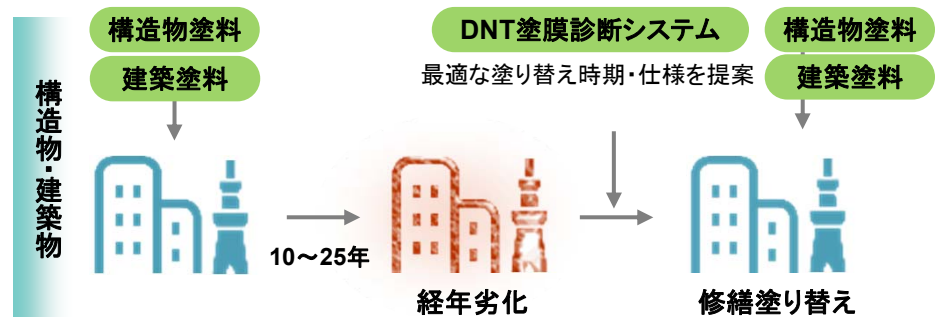
- 高い品質水準維持のために下塗りから上塗りまで、最適な塗装仕様を提供

「塗装システム」として提案・提供 シーラーからオーバーコートまで取扱い



#### 新築から塗り替えまで一貫したビジネスモデル

多様なサービス・品揃えにより塗装物のライフサイクルをカバー

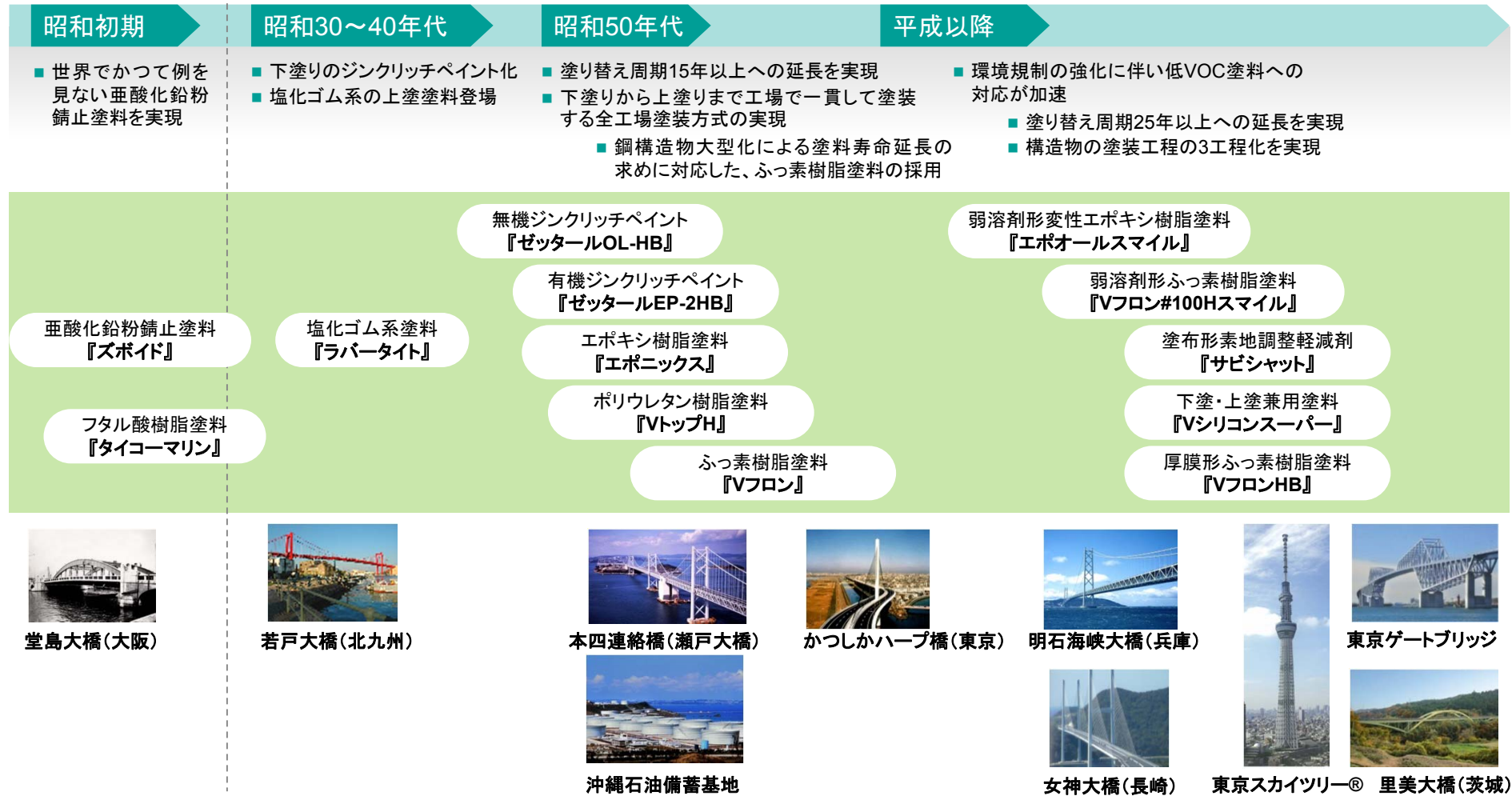




## 6.事業内容

# ①国内塗料事業(2)コア技術としての重防食塗料

- 当社創業以来のコア技術、製品力と技術力に裏打ちされた長年に亘る実績
- 環境に配慮し、塗装工程の短縮、塗り替え周期の長期化を実現する防食技術



## 6.事業内容

### ①国内塗料事業(3)建材塗料でトップシェア

- 重防食塗料と並んだコアビジネス、窯業建材用塗料では国内トップシェア(40%)
- 機能性塗料、高耐久性塗料などラインアップも多岐に亘る
- ジェットインクとの組み合わせによる高意匠化技術の展開を図る

#### 建材塗料における取組み

##### 建材塗料の差別化要件

高耐久性

機能性

高意匠性

1987年9月	K(建材)プロジェクト発足
1993年5月	千葉化工(株)稼働開始 - 建材向け水性塗料の需要増加対応 - 需要地近くの生産拠点

- 建材のライフサイクルにおいて、新築からリフォームまでカバーするビジネスモデルを確立
- プレハブ化時代にプロジェクトを立ち上げ、住宅建設が最も伸長している時代にNo.1シェアを実現
- 鋼板から始まり、窯業系建材として外壁材用の建材塗料も開発

#### SBライズコートシステム



- 新築時の建材に塗装された塗料がリフォーム段階に入った時に、高意匠性のある現行意匠(レンガ調など)を生かし、劣化した塗膜の上に「クリアー塗料」を塗布

#### 最近の開発技術

高耐久性

- 長期塗膜保証(15年、20年)を可能とする有機無機複合樹脂
- ふっ素樹脂クリアーの展開

機能性

- セルフクリーニング機能による防汚機能を実現するため、オーバーコート剤、一液親水クリアーを開発

高意匠性

- ジェットインクによる高意匠仕様を確立

## 6.事業内容

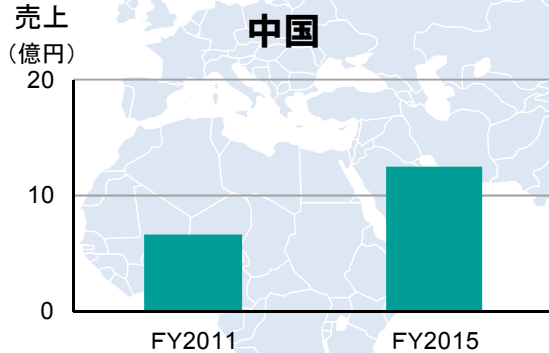
### ②海外塗料事業

- 2012年以降、海外での日系企業需要に対応し、海外事業拡大プロジェクトを展開
- 工業用塗料で土台を構築し、得意分野である重防食塗料の海外市場向け製品化を推進

#### 中国 2002年設立

主要生産品 重防食用、工業用、自動車部品用、プラスチック用、建築用

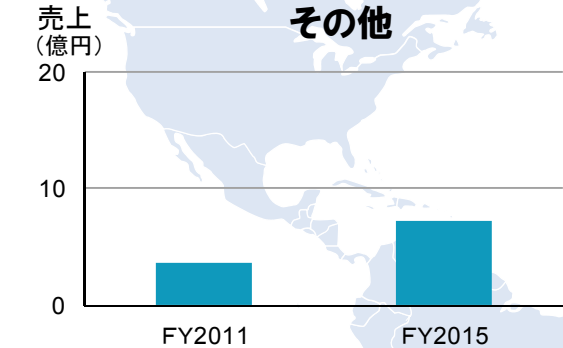
- 品種バランス充実、幅広い分野へ対応
- 自動車部品用塗料中心に工業用事業展開
- 重防食塗料は、日系プロジェクトを中心に展開



#### メキシコ 2003年設立

主要生産品 自動車部品用、プラスチック用

- 2013年関西ペイント(株)との合併販売会社を設立
- 日系自動車メーカーの進出に伴い、自動車部品・プラスチック用塗料を中心に事業拡大
- 今後、北米や南米への拡販も視野に営業活動を推進



#### タイ 1970年設立

主要生産品 自動車部品用、プラスチック用、工業用、重防食用、建築用

- 当社海外現法の最大拠点
- 自動車部品を中心に幅広い分野に事業展開
- 現状工業用中心も、今後、重防食塗料にも注力

#### シンガポール 1972年設立

主要販売品 建築用、重防食用、工業用

- 東南アジア・インド地域統括及び販売・マーケティング機能
- 地場発信型ビジネスモデル構築
- 地域内製品統合
- 未染手市場開拓
- 2014年販社へ特化、マレーシアジョホール州へ生産機能を集約

#### マレーシア 1983年設立

主要生産品 建築用、重防食用、工業用、プラスチック用

- 2014年ジョホール州に新工場設立し、旧シンガポール生産拠点を統合
- 建築用、工業用塗料の生産比率が高い
- 今後、マレーシア他、重防食塗料にも注力

#### インドネシア 2001年設立

主要生産品 自動車部品用、プラスチック用、工業用

- 2014年新工場設立、2工場体制
- インドネシアの日系自動車・部品メーカーの進出加速により、塗料需要が拡大
- 重防食分野を含め現地生産品目を拡大し、事業拡大



### ③照明機器事業(DNライティング(株)・ニッポ電気(株))



- 潜水艦内装用の夜光塗料技術から発展し、高い技術力と商品の完成度が評価され、業務用照明機器の分野で独自の強みを発揮
- 特注品対応、施工などの細やかな顧客対応により、デパート等の店舗照明や高級ブランド店の照明では高いシェアを獲得

#### 建築化照明



- 天井、壁面、屋外など様々なシーンに合わせ、間接光、透過光、直接光などの光の演出により、建築物の特長を損なうことなく空間を演出

#### 店舗照明



- 棚下照明、什器照明、冷蔵ケース照明などの用途ごとに、様々な色温度、配光、サイズ、形状の照明器具を求める設計者やデザイナーの要望に応え、商品をより美しく演出

## 6.事業内容

### ④ 蛍光色材事業(シンロイヒ株)

- 蛍光色材会社として、蛍光塗料・顔料における圧倒的な国内シェア
- 素材の製造・販売から、特殊な蛍光塗料を使って建物の内外装デザインまで手掛ける

#### 防災サイン



- 災害時に非常口などの避難誘導ルートを明確に伝える蛍光塗料

#### ヘリポートサイン



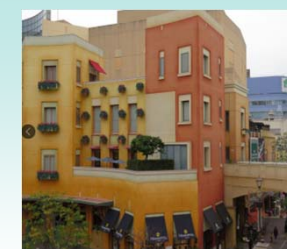
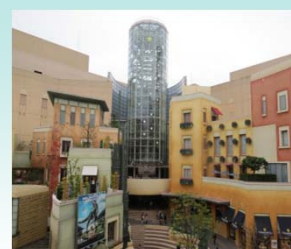
- 災害時に効果を発揮する対空表示(ヘリサイン)専用の蛍光塗料

#### 捺染、インキ用水性蛍光顔料



- 新たな分野として用途開発を進めている蛍光顔料

#### テーマパークコーティング



- 耐候性、耐水性に強い水性アクリル樹脂を使用したデコラティブペイント

# VフロンHBシリーズ/DNT水性重防食システム

- 超耐久性塗装システム「VフロンHBシリーズ」は、塗装系の高耐久化と塗装工程の短縮を実現
- オール水性化を国内で初めて実現した「DNT水性重防食システム」を提供。東京五輪に向けて普及を促進

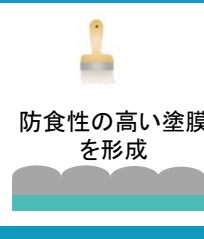
## 超耐久性塗装システム：VフロンHBシリーズ

東京スカイツリー®にも採用の重防食システム

### 塗装工程

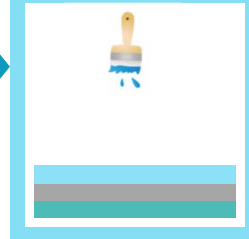
#### 防食下地

有機ジंकリッチ  
ペイントを採用  
ゼッターED-2HB



#### 下塗り

厚膜形エポキシ樹脂  
下塗塗料：  
エポニックス#30下塗HB



優れた耐候性

#### (中塗り)上塗り

厚膜形ふっ素  
樹脂塗料：  
VフロンHB



従来5工程の塗装仕様を3工程に

塗装工程の短縮

VOC排出量を約25%削減

環境負荷の低減

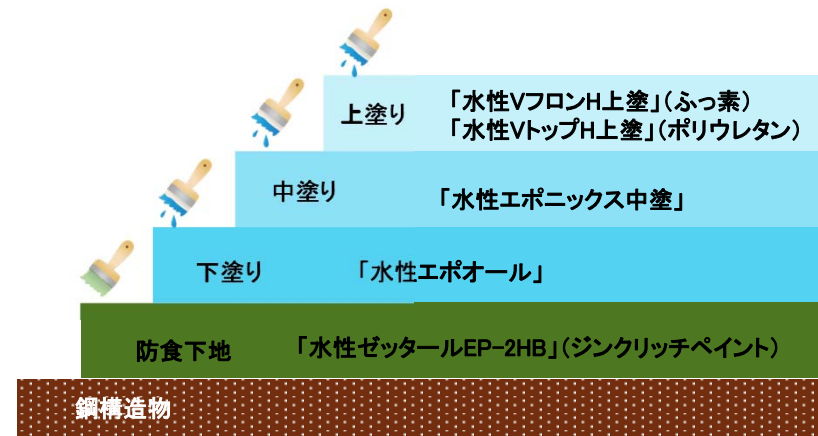
塗り替えサイクル10年→25年

塗り替え周期の延長

## DNT水性重防食システム

環境配慮による溶剤系から水性化への流れ

- ジンクリッチペイントから下塗り、上塗りまでのオール水性化を国内で初めて実現
- 溶剤系と比べVOCを約90%削減



### 水性塗料普及への取組み

- 溶剤形重防食システムと同等の防食性、耐候性を有することをPR
- プラント、タンク、配管、橋梁、立体駐車場などに採用実績

# DNT塗膜診断システム(塗膜診断・塗り替え仕様選定システム)

- 塗膜の劣化・寿命を正確に把握し、LCC(ライフサイクルコスト)低減を提示、補修・塗り替え需要を確保

### システムの特長

- 塗膜下金属腐食診断装置は、ISO13129で認定されたカレントインタラプタ(CI)法を採用し、測定精度の信頼性が確認されている
- 塗膜劣化の範囲及び劣化度を高精度で診断できるため、塗り替え範囲と時期が判定できる
- 旧塗膜の種類や膜厚に応じた、適切で経済的な塗り替え仕様を選定できる

### 適用範囲

- 橋梁
- プラント設備  
(電力、ガス、石油等)

## 1 塗膜調査メニュー

### 1. 外観調査

- ① 目視調査による評価
- ② 画像処理解析による劣化面積算出

### 2. 塗膜下金属腐食診断装置による調査



### 3. 塗膜の調査

- ① 膜厚測定
- ② 付着力測定
- ③ 化学分析

## 塗膜調査結果

## 2 コンピュータ解析による塗り替え仕様選定プロセス

- 期待耐用年数、工事予算、景観・色彩設定なども考慮した選定プロセス

## 診断レポート

## 3 LCCや環境に配慮した最適な塗装仕様を決定



# 2015年度 (NETIS) “推奨技術” に選定 「サビシャット」



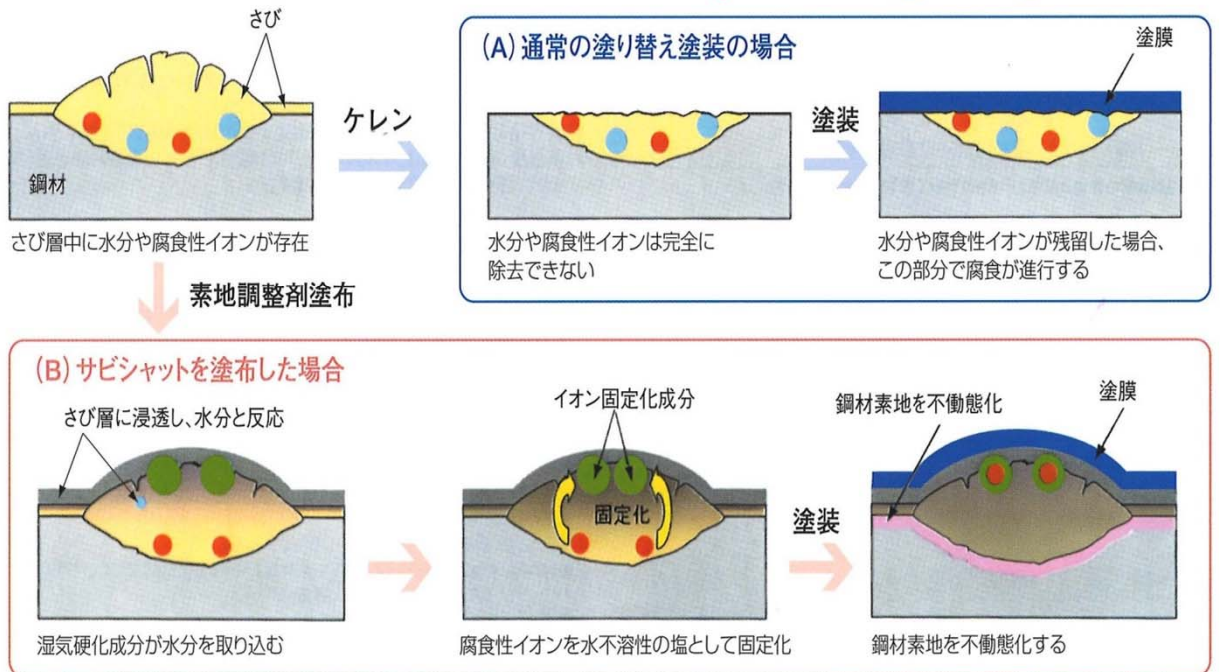
- 塗布形素地調整軽減剤「サビシャット」は、国土交通省のデータベース (NETIS) に登録されている申請情報 (技術) のうち、画期的な新技術として2015年度の「推奨技術」に選定された

## 特長

- ① 粉塵や騒音の発生を低減
- ② 4種ケレン程度の素地調整で高レベルな下地づくりが可能
- ③ さび層に浸透し、脆弱層を強化
- ④ さび層中の水分を除去
- ⑤ さび層中の腐食性イオンを無害化

- 簡単な表面処理 (さび等の除去) 後の塗布のみでのさび止め効果の実現
- 従来の電動工具処理等がかかっていた時間・コストを削減できるうえ、処理で生じる粉塵や騒音を抑制、火花の発生を防止
- 化学プラントのタンク等において安全な塗装作業をサポートすることが可能

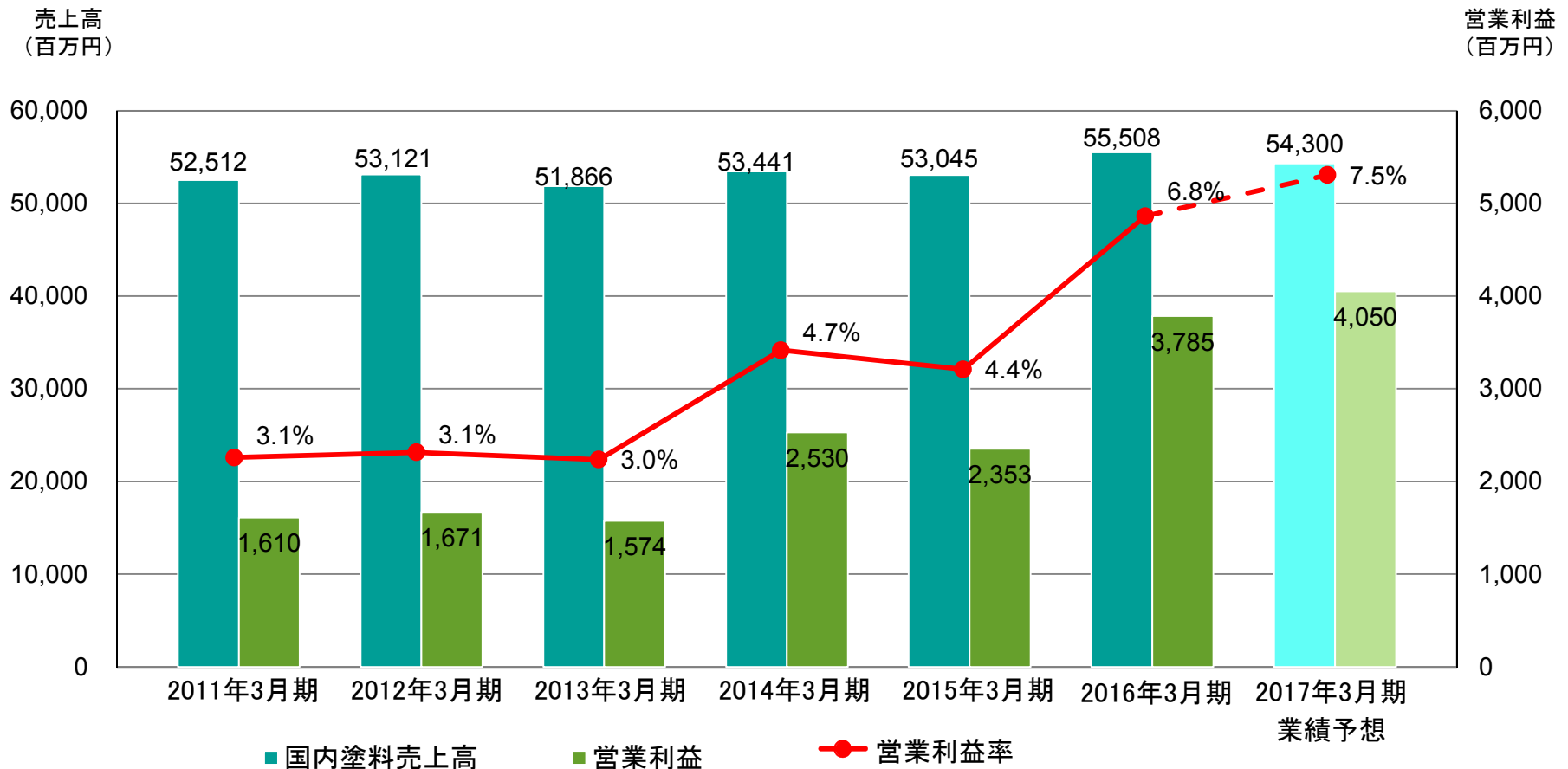
## 塗布形素地調整剤のメカニズム



## 8.国内塗料事業 売上高・営業利益推移



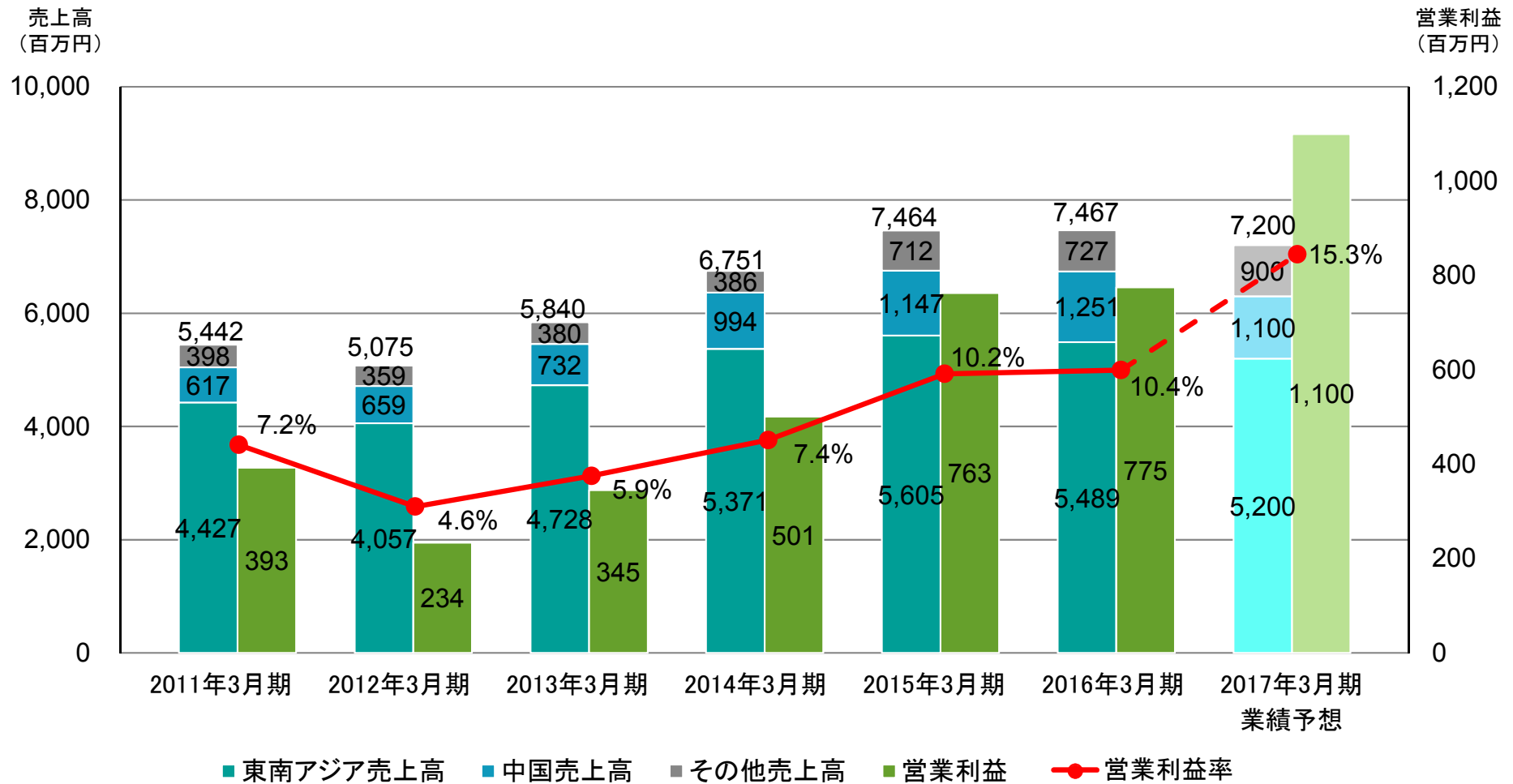
- 市場縮小のなか、インフラ更新需要を着実に取り込み、グループ構造改革や体質改善を進め収益基盤を強化



# 9.海外塗料事業 地域別売上高・営業利益推移



- 拡大市場と位置付け、海外事業拡大プロジェクトの推進、メキシコ合併販売会社により堅調な業績





本日はありがとうございました



## 彩り企業、DNT。

IRに関するお問い合わせ先

**大日本塗料株式会社 管理本部 総務部**

電話: 06-6466-6661  
e-mail: [dnt-sou@star.dnt.co.jp](mailto:dnt-sou@star.dnt.co.jp)

### 将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成していますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。